

# 防災 研修

# 地域で命を守る第1歩に

近年、地震や風水害などの自然災害が発生し、全国各地で甚大な被害を及ぼしています。こうした自然災害から命を守るためには、地域の防災力を向上させることが大切です。

そこで、地域における防災の担い手を育成し、自主防災組織などによる地域防災活動を活性化させることを目的として、次のとおり防災研修会を開催します。自主防災組織などで地域防災活動に取り組む人や、今後せとうち防災リーダーとして活動したい人は、ぜひご参加ください。

## 参加費無料 せとうち防災リーダー養成講座

**日時** 12月11日(日) 午前10時～午後4時30分  
(受付開始:午前9時30分～)

**対象** 自主防災組織で活動する意欲のある人  
自治会などで、自主防災組織の結成をしたい人  
※本講座は新規受講者向けの内容ですが、現在活動中の防災リーダーも参加できます。

**主な内容** 自主防災組織の意義と防災リーダーの役割  
講師：瀬戸内市 総務部 危機管理課  
平常時・災害時において、自治会などの単位で結成する「自主防災組織」にどのような活動が求められるのか、また活動の中心を担う防災リーダーにはどのような役割が求められるのかなどについて学びます。

**災害図上訓練 DIG**  
講師：山口大学大学院創成科学研究科准教授 瀧本 浩一氏

「災害図上訓練 DIG」は、参加者が地図を囲み、地域の情報を書き込みながら防災対策を検討する訓練です。災害対応時の思考力・判断力を身につけられます。あわせて、地域の危険箇所などを確認する「防災まち歩き」を実施します。

**会場** 牛窓町公民館2階 大講座室  
※車でのお越しの場合は駐車場の場所にご注意ください(右図参照)。

**定員** 100人  
※定員になり次第、申し込みを締め切ります。

**申込** 12月5日(月)までにメール、電話、FAXのいずれかにて  
詳細は、右のQRコードから市ホームページをご確認ください。

問 危機管理課 ☎0869-22-3904 mail:kikikanri@city.setouchi.lg.jp

FAX 0869-22-3299



# 国宝「山鳥毛」の拵

瀬戸内発見伝

巻之百四十七

## 刀剣の外装「刀装具」

刀剣には、刀身を安全に保管し、持ち運ぶための外装である「拵」が欠かせません。

弥生時代、日本列島に刀剣文化が伝来し、平安時代中期～末期ごろには、反りのある刀剣の姿が完成します。これらは当初、刃を下にして腰からつるす太刀拵を用いました。その後、室町時代以降に戦闘形態が徒歩戦に変わると、刃を上にして腰に差す打刀拵が一般化します。各時代の社会状況や戦闘形態の変化に伴って、刀剣の姿や拵の形状も変化しました。

また、拵は刀剣を実戦で使う際の実用的な機能だけでは

なく、所有者の身分や所属を示すモチーフとしての機能を持ち合わせているものもありました。このため拵や刀装具には、所有者の好みや、その家の家風などが反映されています。

## 山鳥毛と上杉家

瀬戸内市が所有する国宝「太刀 無銘一文字(山鳥毛)」は、鎌倉時代中期に福岡一文字派の刀工が作った太刀とされています。

戦国時代ごろ、山鳥毛は越後の武将である上杉謙信・景勝親子の元にわたりました。景勝自筆の刀剣の覚書とされる「上杉景勝腰物目録」

には、「上ひさう(上秘蔵)」の欄に「山てうまう」との記載があり、山鳥毛が家宝として大切にされていたことが伺えます。

この山鳥毛には「合口造鞘黒蠟色塗柄革巻拵」という拵が現存しており、刀身と共に国宝に指定されています。この拵は、打刀でありながら鐔のない「合口拵」の形状で、上杉家特有の打刀拵の形状の一つです。柄下地と鞘は黒色の漆で塗り、柄は藍色の革糸で巻いています。目貫や小柄、

拵といった刀装具は赤銅(銅と金と銀の合金)で作られており、これら全てに虎のモチーフが表現されています。総体的に質素で力強い印象

## テーマ展「刀装具・使う・見せる・彩る」

備前長船刀剣博物館で12月3日(土)から開催予定のテーマ展「刀装具・使う・見せる・彩る」では、室町時代から江戸時代にかけての刀装具を中心に展示し、その技巧的側面や文化について紹介します。

また、12月3日(土)～11日(日)の期間中には、山鳥毛の拵「合口造鞘黒蠟色塗柄革巻拵」の特別陳列を行います。個性豊かな刀装具の数々から、日本人の感性や世界観を感じてみませんか。  
【参考文献】  
竹村雅夫「上杉謙信・景勝と家中の武装」



合口造鞘黒蠟色塗柄革巻拵 (国宝「太刀 無銘一文字(山鳥毛)」附) 瀬戸内市蔵